美作畧史

矢吹正則著

亨

東京圖書館

類	屬	函	架	号	冊
		二	一	三一	四

東京圖書館藏書

美作畧史卷之二

津山　矢吹正則　著
男金一郎　校

二年。壬申。三月。後醍醐天皇西狩。車駕駐于院莊。兒島高德。白櫻樹題詩句。（増鏡。太平記。大日本史。作陽誌。兒島誌。）北條高時、天皇ヲ隱岐ニ遷ス、是月七日、車駕京師ヲ發シ、播磨ヨリ杉坂（英田郡村田原村）ヲ踰エ、豐國莊、塩湯郷、和氣莊（並勝南郡）、長岡莊（久米南條郡）ヲ經テ、十七日、院莊村（西西條郡）ニ達ス、賊將小山秀朝（五郎左衛門尉）、兵數百人ヲ率テ之ヲ護衛ス、先是備前ノ人兒島高德（備後三郎）、車駕ヲ奪テ義兵ヲ起ントス、族ヲ擧テ舟坂ニ俟ツ、已ニシテ車

駕美作ニ出ヅト聞キ、乃チ馳セテ杉坂ニ至レバ、車駕既ニ過グ、於レ是衆散ス、高德單身院莊ニ詣リ、夜潛カニ行在ヲ覗ク、護衛殊ニ嚴ニシテ、上言スルニ路ナシ、因テ東大門ノ櫻樹ヲ削リ、天莫空勾踐、時非レ無ニ范蠡ノ十字ヲ題シテ去ル、明日、衛士之ヲ見テ解ス能ハズ、遂ニ天覽ニ供ス、天皇忻然トシテ自ラ喜ビタマフ、四月二日、車駕隱岐ニ到ル、

三年。癸酉。閏二月。天皇還幸于伯耆。江見某等赴レ之。太平記。大日本史。美作古城記。

是月二十四日、天皇潛ニ隱岐ヲ出テ、伯耆船上山ニ還幸ス、江見某英田郡ノ人、併和某久米北條郡ノ人、澁谷某英田郡ノ人、南三郷諸氏是ナリ、並ニ眞島郡ノ人、及ビ菅家一族有元、植月、福光諸氏ヲ称シテ、菅家一族ト曰フ、等相率テ之ニ赴ク、五月二十三日、車駕船上山ヲ發シ、晦日、攝津兵庫ニ達ス、

四月三日。有元佐弘。原田佐秀等。與レ賊戰ニ于京師。死レ之。太平記。美作古城記。有元家譜。鷹取家記。

先レ是、賊大舉シテ楠正成ヲ千窟城ニ攻ム、赤松則村入道圓心、其盧ニ乘ジテ六波羅ヲ擣ントト欲シ、兵ヲ遠近ニ募ル、有元佐弘菅四郎、勝北郡河内村河内山城主、其弟佐光五郎、佐吉郎、三及ビ福光佐長彦次郎、同郡ノ人、植月重佐彦五郎、同郡植月村宮山城主、鷹取種佐彦次郎、家種ノ長子、原田佐秀彦三郎、或云、久米南條郡ノ人、等皆之ニ應ズ、則村遂ニ兵七千餘人ヲ率ヰ、攝

津摩耶山ニ據ル、是日、佐弘等兵三百餘人ヲ以テ京師ニ入リ、賊將武田兵庫助等ト四條猪熊ニ戰ヒ、衆寡敵セズ、士卒皆敗走ス、佐弘追兵ト拒戰シ、遂ニ武田七郎ノ殺ス所ト為ル、佐吉亦死ス、佐光奮戰シテ武田二郎ヲ斬リ、大呼七郎ヲ罵テ曰ク、汝ハ吾兄ノ仇タリ、而メ吾ハ汝兄ノ讐タリ、盍ゾ來テ死ヲ決セザルト、乃チ提ル所ノ首ヲ投ジテ格鬪シ、竟ニ相刺シテ死ス、佐長重佐種佐秀之ヲ見テ返戰シ、皆之ニ死ス、

有元氏ハ、菅原知賴ヨリ出ヅ、知賴ハ道真ノ裔ナリ、嘗テ事ニ坐シ、勝北郡ニ謫セラレ、嘉保元年卒ス、即チ本州菅家ノ祖ナリ、時ニ漆氏海氏ヲ併セテ三貴家ト稱ス、其玄孫滿佐（三穗太郎）魁偉ニシテ仙術ヲ善クス、文曆元年九月卒ス、祠ヲ關本村（同郡）ニ建テ之ヲ祀ル、（三穗神社ト称ス、）滿佐豐田氏ヲ娶リ、數子ヲ生ム、廣戸、福光、植月、皆木、大町、粟井諸氏、皆此ヨリ出ヅ、長子忠勝、始テ有元ヲ以テ氏トス、其孫佐高（筑前守）佐弘等三子ヲ生ム、

延元元年（丙子）四月、江田行義、攻普提寺奈義二城、拔之（太平記、大日本史、美作古城記、有元家譜）

二城（勝北郡高圓村）ハ有元佐顯（民部太夫佐弘ノ子）、小原孫次郎、及ビ江見廣戸諸氏ノ據テ以テ赤松氏ニ應ズル所ナリ、

是年、新田義貞播磨備前ヲ征シ、其將江田行義ニ命ジ、兵三千ヲ率テ之ヲ伐シム、佐顯等防戰シ、力竭テ遁ル、

二年。丁丑。原田忠勝。殺ニ三村秀仲于備中。作陽誌。原田家譜。忠勝左京助、頼勝ノ子、母ハ足利氏冬ノ女ナリ、稲荷山城久米南條郡原田村、ニ據テ、足利氏ニ屬ス、是年、其命ヲ以テ備中ニ入リ、三村秀仲山城守、城ヲ擊殺ス、尊氏乃チ備中高松莊ヲ與テ之ヲ賞ス、正平二年、忠勝山名右京大夫ト備中ニ戰ヒ、敗死ス、

後村上天皇。興國六年。甲申。北朝康永三年。十月九日。中島幸家。補ニ高野郷地頭。作陽古簡集。美作感狀記。高野郷東南條郡、ハ中島隆家丹後守、ノ地頭ト為リ管スル

所ナリ、至レ是、足利直義左兵衛督、其子幸家次郎左衛門、ニ命シテ之ヲ讃ガシム、中島氏ハ、世、此郷ニ住ス、天正六年三月十五日、吉右衛門隆重、羽柴秀吉ノ命ヲ以テ地頭領家ニ補ス、

七年。乙酉。北朝貞和元年。四月二十七日。安東千代一丸。償ニ尊勝寺資産。作陽古簡集。美作感狀記。京師尊勝寺ノ領邑、英多保郡、英田ニ在リ、興國四年、地頭安東千代一丸、同郡山口村ニ住ス、其租稅ヲ抑留ス、雜掌良成姓氏闕ク、同郡川北村ニ居ル、今其地ヲ称シテ松ケ鼻ト曰フ、東作誌ニ、法華山尊勝寺ノ跡ト為スノ者、誤ナリ、守護美作前司佐々木秀貞ニ就テ屢之ヲ訟フ、至レ是、足利直義、千代一丸ニ命ジテ之ヲ辨償セシム、

正平四年。己丑。北朝貞和五年。八月。赤松則村。扼ニ杉坂。太平記。

杉坂（英田郡、）ハ要衝ノ地ナリ、是年、足利直義、直冬ト高師直父子ノ専横ヲ憎ミ、之ヲ除ント欲ス、則村師直ト善シ、其二子則祐、氏範ト俱ニ之ヲ助ク、師直曰ク、京師慮ルニ足ラズ、獨リ佐君（直冬）備後ニ在リ、大舉シテ上洛スルヲ恐ル、請フ君之ヲ要セヨト、則村乃チ播磨ニ歸リ、見兵三千ヲ分テ、舟坂杉坂ヲ扼ス、於是、直冬東上スル能ハズ、

六年。（辛卯。北朝觀應二年。）正月。芳賀某等。擊高師泰于杉坂。不克。（太平記。作陽誌。）

足利直義、南朝ニ歸順シ、足利義詮ヲ京師ニ襲ント、師泰（師直ノ子、）石見ニ在リ、警ヲ聞キ直ニ兵ヲ班ス、芳賀某（久米北條郡、杉山、竹内二氏ノ祖ナリ、）角田某（所在詳ナラズ、兼久中、角田弥平次、西々條郡新郷ヲ領ス、蓋シ其裔ナラン、）乃チ遽ニ兵七百餘ヲ募リ、之ヲ杉坂ニ要擊ス、衆寡敵セズ、芳賀等敗走ス、

二月二十一日。後藤義季。弟康季。共ニ補鹽湯郷地頭。（作陽古簡集。美作感狀記。）

先是、後藤光義、始テ鹽湯郷（勝南郡、）ニ地頭タリシヨリ、世、之ヲ襲グ、至此、義季（左京亮、）康季（右衛門尉、）兄弟、共ニ地頭兼公文職ト為ル、（後藤氏ノ宅趾、湯郷村浴室ノ南ニ在リ、今呼テ構ノ殿ト云フ、）

十五年。（庚子。北朝延文五年。）山名時氏。攻ニ院莊城ヲ陷レ之。（太平記。美作古城記。）

先是、時氏（伊豆守、）ノ子師義（右衛門佐、初師氏ト稱ス、）足利義詮ニ背キ、時氏ヲ勸テ南朝ニ歸順ス、是年、時氏父子歩騎四

千五百ヲ將井テ、守護赤松貞範筑前守、法號世貞、則村ノ第二子、ノ屬城ヲ攻ントシ、其將小池中書福依八左衛門ヲシテ篠葺城大庭郡三寄河原村、ニ向ハシメ、淀井丹波守、武田刑部左衛門等ヲシテ高田城真島郡高田村、後勝山城ト稱ス、ヲ攻シメ、自ラ精兵ヲ督シテ國府ニ入リ、院莊城西々條郡院莊村、後構城ト稱ス、ヲ圍ム、城兵僅ニ六百餘、逃走スル者多シ、主將江見景信兵八郎勝南郡同為木村、自殺シ、城陷ル、高田、篠葺及ビ塔尾新宮田村、新影石吉野郡長尾村、諸城皆風ヲ望テ降レ、作陽誌ニ曰ク、赤松氏ノ將佳井上野介義行、渡邉刑部少輔、山名時氏ト院莊ニ戰ヒ敗死スト、蓋シ此役ノ事ナラン、○園大曆、大日本史並ニ曰ク、正平七年九月、山名時氏南朝ニ歸順シ、明年三月、美作ヲ收ムト、太平記ニ、其歸順ヲ以テ正平八年トシ、本州ノ事ヲ記セズ、因テ姑ク之ヲ欽ク、國府ハ、苫田國府ヲ指スニ非ラズ、院莊ハ州ノ中央ニ位シ、地勢廣濶ニシテ水陸便アリ、是ヲ以テ人民輻湊シ、守護地頭亦多ク此ニ居ル、興國元年、足利尊氏、諸國ニ安國寺ヲ創立スル、亦此地ニ立ツ、故ニ當時國府ト稱セリ、錄シ以テ參考ニ供ス、

十六年。辛丑。北朝康安元年。七月。時氏連降諸城。太平記。本朝通紀。

是月十二日、時氏父子、復出雲因幡、伯耆ノ兵三千餘ヲ率テ來ル、廣戸掃部助奈義能仙城主、有元佐顯菩提寺城主、小原孫次郎吉野郡大原保、小原城主、大野某同郡大野郷城主、飯田某篠葺城主、等、未ダ兵ヲ接セズシテ降ル、林野城英田郡倉數村、後倉數城ト稱ス、妙見城勝南郡妙見村、後三星城ト稱ス、ノ兵ハ、抗戰二旬餘、力竭テ降ル、時氏ノ將小林重長民部少輔、進デ竹山城吉野郡下町村、ヲ攻メ之ヲ拔ク、

十一月四日。時氏陷鞍懸城。太平記。大日本史。本朝通紀。城吉野郡田殿村、ハ佐用貞久美濃守、赤松氏ノ支族、有元佐久和泉守、士卒三百ヲ以テ守ル所ナリ、時氏勝ニ乗ジテ来リ攻メ、一鼓之ヲ拔ントス、二人屈セズ、壁ニ嬰リ堅ク守ル、時氏乃チ城ヲ環リ二十二壘ヲ築キ、其餉道ヲ絶チ、自ラ城東ノ高丘今里民之ヲ大將ノ陣ト稱ス、ニ陣シ、久闔ノ計ヲ為ス、赤松貞範之ヲ援ントシ、兵二千人ヲ率ヰ、高倉山播磨、○美作鏡、東北條郡高倉山ト為ス、誤レリ、ノ下ニ次ス、時ニ師義精兵八百ヲ以テ游軍タリ、貞範先ヅ之ヲ襲ントス、適マ阿保肥前入道等、但馬ヨリ侵入スト告ル者アリ、即チ戍兵ヲ置テ之ニ備フ、於是兵分レ事多シ、使ヲ讃岐ニ遣ハシ、援ヲ細川頼之太平記、頼之ニ作ル、今大日本史、日本外史ニ據ル、ニ乞フ、頼之乃九月十日ヲ以テ備前ニ航シ而メ至ラズ、貞久等糧盡キ援無キヲ以テ、城ヲ棄テテ去ル、

十七年。壬寅北朝貞治元年。六月。時氏勤兵于院莊。入備前備中。太平記。本朝通紀。去年、時氏諸城ヲ降シ、軍ヲ伯耆ニ收ム、是月三日、又兵五千ヲ率テ院莊ニ來リ、將士ヲ招募ス、而メ師義ヲシテ、二千餘人ヲ以テ備中ニ向ハシメ、自ラ餘兵ヲ督シテ備前ニ入リ、松田、河村、浦上諸氏ト戰フ、是歳。大旱。本朝年代記。

十九年、甲辰。北朝貞治三年。時氏為守護。太平記。本朝通紀。足利將軍譜、

是年、時氏復北朝ニ屬ス、足利義詮大ニ悅ビ、本州及ヒ因幡伯耆丹波丹後ノ守護職ト為ス、時氏乃チ族山名義理修理權太夫、ヲ以、本州ノ守護代ト為ス、時氏、後道静ト稱ス、建德二年卒ス、

後龜山天皇。元中二年。乙丑。北朝至德二年。山名時治。修營高野神社。山名家記。高野誌。神社棟札。作陽誌。

社ハ二宮村西々條郡、初美和村、ニ在リ、人民ノ崇敬尤モ重ク、遂ニ邑ヲ二宮ト稱ス、是年時治三河守、義理ニ代テ守護代ト為ル、之ヲ造營ス、七月十二日、遷宮式ヲ行ヒ、神馬數頭ヲ獻ズ、按ニ、州中神馬ヲ繫グ者獨リ此社ノミ、後代ノ国主モ、亦皆神馬料ヲ供ス、

九年。壬申。北朝明德三年。正月四日。赤松義則為守護。明德記。本朝通紀。南方紀傳。

客歲、山名氏清時氏ノ第二子、滿幸師義ノ子、足利義滿ニ叛ク、義滿、細川畠山赤松諸氏ニ命シテ之ヲ誅セシム、至リ是、氏清ノ舊邑ヲ分チ、義則上總介、初兵部太輔、則祐ノ子、ヲ以テ本州ノ守護職ト為ス、義則乃チ旋赤松教政孫三郎、ヲシテ嵯峨山城久米南條郡中島村、一名佐良山城、ニ居ラシム、

後小松天皇。應永二年。乙。二月七日。田口光政死。作陽誌。光井家記。

光政薩摩守、嘗テ山名時氏ニ屬シ、軍功アリ、至リ此死ス、法諱引來院、田邑村ニ葬ル、田口氏ハ、武内宿禰ヨリ出ヅ、宿禰ノ裔某、大和高市郡田口村ニ住シ、因テ氏

トス、後本州ニ來リ、東南條郡北高田莊、或ハ西北條郡田邑村ニ住ス、其氏名貞觀以後見ル所多シ、慶長中ニ至ルマデ、爽葉北高田莊内ヲ食ム、市、玉串、田中、光井諸氏、皆此ヨリ出ヅ、

後花園天皇。永享十一年。（己未）越尾秀忠。殺二植木惣十郎。辻家記。作陽誌。

是年、惣十郎備中ノ人、塹壘ヲ鹿田村郡、眞島上寺ニ築キ、荐リニ近隣ヲ劫掠ス、秀忠五郎次郎、守護赤松滿祐大膳大夫、義則ノ子、ノ命ヲ奉シ、擊テ之ヲ殺ス、其功ヲ以テ鹿田郷ヲ領シ、石井城ヲ築キ此ニ居ル、越尾氏ハ、久米南條郡原田氏ノ支族ナリ、其祖父持近、始テ同郡越尾村ニ住シ、越尾ヲ氏トス、秀忠後山名氏ニ事フ、其子新次郎秀清、又地名ニ因テ辻氏ニ改ム、

嘉吉元年。壬辛。九月。山名教清為二守護。嘉吉軍記。水朝通記。作陽誌。

是年六月二十四日、播磨備前及本州守護赤松滿祐叛シ、將軍足利義教ヲ京師ニ弑シ、播磨白幡城ニ據ル、足利義勝、乃チ細川持之、大内持世、山名持豐ヲシテ之ヲ討シム、持豐一族、但馬ヨリ進擊シ、九月十日ヲ以テ滿祐ヲ誅ス、於是、播磨ヲ持豐ニ、備前ヲ山名教之ニ、本州ヲ山名教清修理大夫、ニ賜フ、教清乃チ岩屋城久米北條郡中北村、ヲ築キ、此ニ居ル、又鶴山城西北條郡津山、ヲ築テ、山名忠政剛、ヲ居ク、忠政後鶴山城ニ卒ス、慶長中、森忠政城ヲ其墟ニ築キ地ヲ掘テ石棺ヲ得タリ、鏐テ山名忠政ト曰フ、忠政其已ト同名、且共ニ源出ナルヲ以テ、大ニ之ヲ崇敬シ、祠ヲ墓上ニ建テ、若宮ト称ス、鶴山八幡宮ヲ不知夜山ニ遷スニ及デ、亦同ク遷ス、

三年。癸亥。七月。山名忠政。擊二赤松則重於備中。平之。備前軍記。作陽誌。

誌。作陽古簡集。

則重郎三、八満祐ノ姪ナリ、是春、兵ヲ備中ニ起シ、將ニ本州ヲ剽掠セントス、教清乃チ忠政ニ命シテ之ヲ討シム、四月、忠政越尾秀忠ヲシテ鹿田郷ヲ固守セシメ、自ラ進テ備中ニ入ル、七月二十八日、大ニ戰ヒ之ヲ破ル、則重水田地名ニ自殺ス、此役、備前福岡城主小鴨大和守、山名教之ノ命ヲ兼テ之ニ會ス、

康正二年。丙子。貢二段錢。釋書類聚。

是歳、内裏ヲ修造シ、段錢ヲ徵セラル、伊勢心慶曰幡入道所領東南條郡北高田庄内、西々條郡神戸郷内、佐野下野入道、佐野孫次郎所領同郡本莊、等、之ヲ貢ス、作陽誌、真島郡古跡真島郷、本莊能登守所領同郡月田郷、

ノ部ニ、佐野屋敷、及ビ佐野淨願塚ナル者ヲ載セ、而テ其故ヲ知ラズト云フ、蓋シ孫次郎等ノ遺蹟ナラン、

後土御門天皇。應仁元年。丁卯。六月十三日。赤松氏兵侵二本州一。山名掃部頭。擊走レ之。應仁別記。備前軍記。

先是、赤松政則次郎法師、後左京大夫、満祐ノ弟義雅ノ孫ナリ、備前新田莊ヲ領ス、恒ニ祖業ヲ恢復セントス欲シ、未ダ果サズ、是年、山名持豐法號宗全、細川勝元ト、兵ヲ京師ニ交フ、親屬舊故、各黨ヲ分テ應援シ、或ハ諸國ニ鬬戰ス、天下大ニ乱ル、守護山名政清修理大夫教清ノ子、叔掃部頭ヲシテ留守セシメ、自ラ兵三千ヲ率ヰ、上京シテ持豐ヲ救フ、政則勝元ト善シ、乃チ之ヲ助ケ以テ其志ヲ成シント

欲シ、連リニ備作ノ兵ヲ募ル、既ニシテ勝元ノ促ス所ト為リ上京ス、其族宇野下野入道、太田三郎兵ヲ播磨ニ起シ、粟井右京進（宇野邸ヲ以テ嚮導ト為シ、來テ南峽（所在詳ナラズ）、鹽垂山（勝南郡湯郷村）ニ陣ス、掃部頭之ヲ襲フ、宇野等兵仗ヲ棄テ、走ル、

十月三日。赤松氏將中村五郎左衛門尉。入ニ于院莊（應仁別記）

備前軍記。

五郎左衛門尉、居常本州ヲ覦フ、會マ山名掃部頭大内政弘ニ誘ハレ上京ス、五郎左衛門尉、乃チ諸將士ニ謀リ、進デ院莊ニ入ル、州人應ズル者多ク、屢山名氏ノ兵ヲ破ル、然ドモ姒見城（勝南郡）、和氣山城（同郡）、○（按ニ瓜生原村ナラン、平城ナリ）、菩提寺城（勝北郡）ハ兵備頗ル嚴ニシテ下ス能ハズ、政則報ヲ獲テ賞岡祐貴（民部輔）ヲ遣ハシ援ケ攻シム、是ヨリ干戈止ム時ナシ、後遂ニ之ヲ陷ル、

室町殿日記、應仁別記並ニ曰ク、山名掃部頭病死ス、子彦旁盡期山ニ敗績シ、伯耆ニ走ル、大町某山城（柏城）ニ戰死シ、粟井加賀（松原彈正）和氣山ニ敗死ス、按ニ、其事蹟及ビ年月詳ナラズト雖モ、皆山名氏ノ赤松氏ト防戰スル所ナリ、蓋シ所謂和氣山ハ勝南郡和氣山、盡期山ハ西々條郡神戸村ニシテ、山城ハ同郡山城村ナラン、且和氣山ハ曠山ノ泛稱ニシテ、山中ニ鴛淵山、平、横手等ノ四城墟アリ、錄シ以テ後ニ參考ニ備フ、

文明四年。壬辰。正月二十四日。山名氏兵陷ニ鴛淵山城。（美作古城記。備前和氣紬。）

先是、赤松氏ノ臣難波行季（九郎左衛門尉）、鴛淵山城（勝南郡羽仁村）

ヲ取リ爲ニ據ル、是日、山名氏ノ兵、大舉シ來リ襲フ、行季防グ能ハズ、姪宗世（右衛門、難波十郎兵衛尉行豊ノ子）等二十三人ト、土谷佐村（同郡周ニ）ニ鬪死ス、其二子宮内、平次郎、皆幼弱、戰ハズシテ走ル、備前赤坂郡伊田村（難波氏ニ傳ル行豊ノ軍忠狀ニ、此役ヲ以テ應仁四年ト為シ、勝南郡行信村矢吹氏難波氏ニ傳ル古記錄及ビ美作古城記ニ、皆文明四年ト為ス、按ニ、應仁ハ二年ナリ、且テ姑ク本州ノ傳ニ據ル、）

十五年。癸卯。九月二十六日。山名清成、修營德山神社。（作誌。）陽社ハ德山村（大庭郡ニ在リ、傳テ舊神ト稱ス、）清成（刑部少輔）其代官山名清重（和泉入道、）ニ命ジテ、之ヲ造營セシム、（後文明十八年、栗井近江守景盛、吉野郡栗井莊春日神社ヲ造營ス、永正九年、植月彦次郎、勝北郡植月鄉日吉神社ヲ造營ス、天正四年、撰田左金吾繼家、同郡小吉野莊諏訪神社ヲ造營ス、）

十二月。小瀨彈正等。率ヒ兵救ヒ福岡城。（備前軍記。美作古城記。）先是、松田元成（備前金川城主、）赤松政則ニ叛キ、山名俊豐（備中國主、）ト浦上則國（備前三石城主、）ヲ備前福岡城ニ攻ム、勝敗久ク決セズ、政則乃チ諸臣ニ令シテ之ヲ援ハシム、小瀨彈正（西北條郡寺和田村日上山城主、）大河原治久（彈正左衛門、岩屋城主、）兵千餘人ヲ募リ、進テ大松山ニ軍ス、元成、子元勝ヲ金川城ニ歸シ之ヲ扼セシム、明春、彈正等城陷ルヲ聞テ軍ヲ班ス、（元書、大松山ヲ以テ備作ノ國境ト為ス、按ニ、備前赤坂郡ニ大松山村アリ、其地本州引前ヨリ備前西大寺ニ至ル通路ニシテ、昔時佛刹多ク、兵ヲ容ル、ニ便ナリ、蓋シ此地ナラン乎、）長享元年。村。九月三浦貞連等。從ヒ足利義尚軍ニ于近江。（書樣類聚。）

貞連駿河守、高及ヒ佐野貞綱又五郎、月田郷ノ人、有元民部亟普提寺城主、安威新左衛門居處詳ナラズ、京師ニ宿衛ス、御番衆ト称ス、是月十日、將軍義尚、六角高頼ヲ伐チ、近江坂本ニ陣ス、貞連等皆之ニ從フ、

明應七年。戊午。八月三日。立石景泰與ニ後藤勝國。戰ニ于笠松山。作陽誌。立石家記。

勝國左衛門尉光義遠孫、三星城主、ノ美和山城西々條郡ニ宮村、ヲ取ント欲シ、兵一百二十ヲ率テ來ル、城主立石景泰兵部亟、本姓ハ漆氏、手兵八十餘ヲ以テ笠松山西北條郡小田中村、ニ邀ヘ戰フ、景泰ノ部士田原四郎、射テ勝國ヲ殺ス、明年、景泰病死ス、後柏原天皇。文亀二年。壬戌。三月。後藤勝政。攻ニ殺立石久朝。

美作古城記。立石家記。

勝政左衛門佐、父勝國ノ死ヲ憤リ、是月、浦上行重金城主、ニ謀リ、士卒三百餘ヲ率ヰ、小田中村ニ陣ス、久朝掃部助景泰ノ部兵二百餘ヲ以テ、之ヲ城東龜ガ淵ニ拒グ、勝政潛ニ兵ヲ城背ニ遣ラシ、而メ自ラ龜ガ淵ニ戰フ、城兵事急ナルヲ視テ、皆出援フ、城背ノ兵其虛ニ來ジ火ヲ縱テ鏖戰ス、烟焔城ニ漲ル、龜ガ淵ノ兵之ヲ見、狼狽散走ス、久朝力盡キ、一族十九人ト共ニ藥師堂ニ入テ自殺ス、其子弥平次郎、幼孩僅ニ免ル、

文龜中。三浦貞連。援ニ篠葺城。作陽誌。金田家記。

貞連、恒ニ篠葺城大庭郡、ヲ覬フ、一日、纍ニ來ジ攻テ城

將山名右近亮ヲ殺シ、其將福田、金田、近藤等ヲシテ之ヲ守シム、

永正十七年。庚辰。赤松政村兵。與浦上村宗戰于岩屋城。赤松記。備前軍記。幻住寺古書。

先是、村宗（掃部助、）政村（左京大夫、攻則ノ子、）二叛キ、備前三石城ニ據ル、諸將多ク之ニ應ズ、是年、政村其將小寺範職（加賀守、○一ニ則ヲシテ職ニ作ル、）ヲシテ岩屋城（久米郡、北ヲ攻シム、四月十二日、範職城ヲ圍ム、城主中村則久（大和守、○赤松記、備前軍記、並ニ五郎ニ作ル、今幻住寺古書ニ據ル、）固守シテ屈セズ、九月、食竭キ將ニ陷ントシ、救ヲ村宗ニ求ム、村宗乃チ松田元勝ト兵ヲ率テ倭文口（同郡）ヨリ進ミ、十月三日、城ノ東南茶臼山ニ陣ス、然ルニ赤松氏ノ兵日ニ加ルヲ見テ、脱走スル者頗ル多シ、其將守喜多能家（平左衛門、後和泉守、）謂ラク敵ヲシテ我寡弱ヲ知シム可ラズト、曉ニ乘ジテ範職ノ營ヲ襲ヒ、大ニ之ヲ破ル、脱走ノ兵、捷ヲ聞キ來リ歸ル者千餘人、村宗遂ニ範職ノ臣野澤主計介ヲ誘ヒ、陰ニ之ヲ殺シメ、擊テ首級三百餘ヲ獲テ凱旋ス、（是年七月八日、能家範職ノ兵ト、勝南郡飯岡河原ニ戰ヒ之ヲ破ル、範職ノ兵、溺ル、者數十シ、）

大永三年。癸未。二月二十七日。後藤勝政陷金室城。（美作古城記。元祿明細帳。）

城（勝南郡行信村、）ハ浦上行重（左馬助、）ノ據ル所ナリ、先是、浦上村國（因幡守、）村宗ト隙アリ、而シテ行重村國ニ屬シ、勝政

ハ村宗ニ屬ス、一日勝政ノ臣鵜殿（一ニ宇土ニ作ル、）十内、命ヲ奉ジテ金室城ニ拠ル、行重之ヲ饗シ、厨人ヲシテ餛飩ヲ製セシム、暫クシテ問テ曰ク、餛飩已ニ寢タリヤ、（方言麥粉ヲ水ニ和シ、之ヲ寢サスト云、熟セシムルヲ）速ニ打テ（方言餛飩ヲ製スルヲ）云ヘト、饗スベシ、蓋シ餛飩、鵜殿、國訓相通シ、十内ノ僕之ヲ聞キ、誤テ主人ヲ擊ツノ言ト為シ、竊ニ賓館ヲ覘フ、時ニ十内既ニ酣寢ス、乃チ喚起シテ之ヲ告グ、十内狼狽シ、直ニ馬ニ鞭チ去ル、行重愕キ、人ヲシテ追ヒ遏シム、彼騎我歩竟ニ及ハズ、追者松尾村（同郡）ニ至リ、大ニ呼デ曰ク、彼騎遏ム可シ、土豪日野田藤助、以テ射留ムベシト為シ、輙チ射テ之ヲ斃ス、是日、勝政來リ攻ム、行重戰死シ、城陷ル、（城北福谷ニ行重ノ墓アリ、）後奈良天皇享禄四年。（辛卯）六月四日。赤松政祐擊殺浦上村宗。（美作古城記。備前軍記。）

曩キニ政村ノ村宗ニ弑セラルヽヤ、嫡子政祐（兵部少輔、後左京太夫、）年猶幼ナリ、村國之ヲ擁シテ淡路ニ奔ル、後來テ新庄山城（久米南條郡原田村、）ニ住シ、常ニ復讐ヲ圖ル、會マ村宗細川高國ヲ助ケ、細川晴元ト攝津ニ對持スト聞キ、乃チ晴元ニ屬ス、其遺臣村宗ニ脅從スル者、相競テ歸附ス、是日、政祐天王寺、木津、今宮ニ轉戰シ、遂ニ村宗ヲ殺シ、高國ヲ擒ニス、將軍足利義晴其功ヲ賞シ、偏名ヲ賜テ晴政ト更ム、播磨小塩城ニ徙居

ス、

天文元年。壬辰。九月。尾子經久將三好安藝守。降諸城。美作古城記。○東作誌。作天正元年誤。

經久伊豫守、出雲冨田城主、已ニ因幡伯耆ヲ定ム、於是三好安藝守ヲ以テ將トシ、今井安春新左衛門、ヲ以テ嚮導トシ來リ略セシム、兵勢頗ル强シ、諸城風靡ス、獨リ有元遠江勝北郡中島中島山城主、屈セズ、抗戰シテ死ス、安藝守岩尾山城東北條郡吉見村、ヲ取テ此ニ據ル、

二年。癸巳。三月。安藝守陷二細尾山城。美作古城記。

皆木保高右門太夫、其弟佐保菅四郎、廣戸廣家目幡守、廣吉小次郎、等細尾山城勝北郡宮内村、ニ據テ、尼子氏ノ兵ニ抗ス、是月安藝守兵五百ヲ以テ來リ攻ム、城兵險ニ依テ矢石ヲ投ズ、敵進ム能ハズ、今井安春精兵ヲ督シ、津川奥ヨリ城後ニ出デ、火ヲ縱テ疾ク攻ム、熖烟天ヲ蔽フ、城兵倉皇シテ之ヲ过畝ニ避ク、佐保戰死ス、廣家創ヲ被リ、森安次郎太郎ニ扶ケラレ走ル、竟ニ追兵ニ逼ラレテ自裁ス、保高等壁ニ身ヲ以テ免ル、

七年。戊戌。五月。原田忠長播磨守、忠勝ノ裔、稲荷山城主、尼子氏ニ屬ス、是月、神樂尾山城西北條郡田邑村、ヲ襲フ、城主山名氏兼右京太夫、一宮同郡、ニ敗走ス、

十年。辛丑。六月。江見秀房屬二浦上政宗。江見家記。作陽古簡集。

秀房（右衛門太夫、）奕世烏越山城（英田郡鮎村、）ニ據テ赤松氏ニ
属シ、江見庄數邑ヲ領ス、浦上政宗（播磨部助、村宗景ノ子、）宗景（遠江守、）
兄弟、赤松氏ノ陵替ニ乗ジ、其城邑ヲ劫略ス、已ニ
シテ兄弟相鬩ギ、互ニ將士ヲ招ク、秀房乃チ津田家
盛（石守、）見ニ賴テ、始テ政宗ニ屬ス、

十二年。（癸卯。）山名氏兼襲殺原田忠長。（作陽誌。原田家譜。）
氏兼、稻荷山城ヲ襲フ、城兵駭走シ、忠長自殺ス、其宰
池上内蔵助等、忠長ノ子貞佐（小次郎、）次ヲ擁シテ遁ル、傾
（後城ヲ復シ、三河守ト稱ス、守喜多直家ニ事フ、其子三郎左衛門行佐、孫彌右衛門忠佐、相繼デ直家ノ子
秀家ニ事ツ、朝鮮ノ役、家奴醉ニ乘ジテ闘撃ス、大閤
豐臣秀吉其軍禁ヲ犯スヲ怒リ、秀家ニ命ジテ忠佐
ヲ詰責シ、故チ還サシム、忠佐缺望シ、鄉ニ歸テ其児
僧トス、誕生寺顛譽上人是ナリ、按ニ、保安五年、平

興方始テ城ヲ此ニ築キシヨリ、忠佐ニ
至テ十七世、四百七十年ニシテ亡ブ、

十三年。（甲辰。）十一月。尼子國久降岩屋諸城。（陰德大平記。美作古城記。）
尼子晴久（修理太夫、經久ノ孫、）其族國久（紀伊守、）及ビ宇山久信（飛彈守、）ニ
命ジ、兵五千ヲ率ヰテ本州ヲ拔畧セシム、久信
乃チ高田城（城主三浦下野守貞久、貞連ノ孫、）ヲ攻メ、國久岩屋城（城主中村
大和守則治、則久ノ子、）及ビ小田草城（西々條郡馬場村、城主齋藤河内守實秀、）ヲ攻
ム、衆寡敵セズ、二城輙チ降ル、國久進テ井ノ内城（勝南
郡下山村、）ヲ攻メ、下山清氏（筑後守、）ヲ殺ス、而メ高田城頗ル
堅キヲ聞キ、軍ヲ移シ兵ヲ久信ニ付シテ還ル、久信
攻擊數年下ス能ハズ、（下山清氏ノ弟源五郎氏晴、伯耆大山ノ神ヲ崇信ス、一日之
ニ詣リ、備中水田ノ人鈴木新之亟ト、事ヲ以テ相闘
テ死ス、後崇ヲ為ス、之ヲ大山ニ祀ル、大山ノ下山神

社ハ、即チ是ナリト云フ、

十四年。乙巳。大旱。本朝年代記。

四月十七日ヨリ八月ニ至リ、雨フラズ、

十七年。戊申。九月。守山久信拔二高田城。三浦家記。一作陽誌。

是月十六日、城主三浦貞久病デ卒ス、久信喪ニ乘ジテ來リ攻ム、衆心一ナラズ、城竟ニ陷ル、貞久ノ二子貞勝孫九郎、貞廣孫五郎、二弟貞尚孫三郎、貞盛通称詳ナラズ、皆遁ル、貞尚岩屋城ニ入リ、貞勝等備前備中ノ間ニ匿ル、久信乃チ之ヲ守ル、

二十二年。癸丑。三月。尼子晴久徇二本州。陰德太平記。一美作古城記、

去年五月、晴久備後ニ入リ、毛利元就安藝國主、ト相持ス、

本州ノ衆士多ク之ニ從フ、赤松晴政、浦上宗景此時ニ來ジテ本州ヲ回復セント欲シ、陰ニ州人ヲ煽動ス、晴久之ヲ聞キ、是月、士卒二萬八千ヲ將ヰ來ル、宗景兵一萬五千ヲ以テ、高田村眞島郡ニ逆ヘ戰ヒ、利アラズシテ退ク、晴久ノ威大ニ震フ、齋藤、江見、後藤等、皆風ヲ望デ降ル、晴久播磨ニ進入シ、數城ヲ拔テ凱旋ス、浦上政宗宗景兄弟相鬩ギ、政宗尼子氏ト兵ヲ合セ、宗景ノ天神山城ヲ襲ヒシ時ノ書、今尚東北條郡塔中村收氏、備前赤坂郡神田村花房氏ニ傳フ、然ルニ未ダ諸書尼子氏ノ備前ニ入リシ事ヲ載スルヲ見ズ、附錄シ以テ後ノ參考ニ供スト云フ、

天文某年九月九日布施神祭多死者。作陽誌。

社西々條郡冨西谷村、ハ冨東谷冨函谷、大、楠、中間數村ノ鄉神

ニシテ、久田、中谷、奥津、齋原諸村（並同郡）ノ總鎮守タリ、例年祭日、各村ノ民、神輿十二ヲ舁ギテ來リ、神饌ヲ供シ各樂飲シ、而シテ後軍事ヲ模擬ス、俗之ヲ神軍ト稱ス、是日、乃チ弓刀ヲ用テ相鬪フ、死スル者一百餘人、之ヲ冨東谷村ニ合葬ス（今百人塚ト稱スル者是ナリ）、後遂ニ廢ス、上古、每郡ニ總社一宮或ハ大宮ト稱スル者アリ、大祭ノ日、郡内ノ神輿、此ニ會シテ祭事ヲ為ス、中山高野二社ノ如キモ、西北條郡總社社ニ會セリ、後チ競奢爭榮、舊規ヲ紊亂シ、終ニ神事ヲ私スルニ至ル、

弘治元年。乙卯。十一月二十四日。後藤勝基襲殺豐福教尹。（美作感狀記、作陽古簡集。）

教尹（肥前介、播磨人）弟宗隆（兵庫助）ト、赤松晴政ノ援ヲ以テ、大原保讃甘庄（並吉野郡）ヲ略有ス、是日、勝基（摂津守、勝政ノ子）、兵ヲ率テ之ヲ襲フ、教尹鬪死ス、

正親町天皇。永祿二年。己未。三月。三浦遺臣復高田城。（作陽誌。三浦家記。）

高田城陷ルノ後、三浦氏ノ老船津彈正、牧尚春（兵庫助）、金田弘久（加賀介）等、恒ニ舊士ヲ慰撫シ、恢復ヲ圖ル、是月、兵ヲ擧テ城ヲ襲ヒ、擊テ守將宇山久信ヲ走ラス、於是、彈正等三浦貞尚貞盛ニ謀リ、貞勝（貞久ノ嫡子）ヲ立テ城主ト為ス、此役、弘久高田川ニ戰死ス、

四月五日。尼子晴久造營中山神社。（作陽誌。）

天文末年、兇徒五千餘人、苫田郷（西北條郡）ニ嘯集シテ、近

郷ヲ横行シ、良民ヲ劫略ス、晴久之ヲ討ツ、兇徒中山社（西一村）ニ據ル、連戰利アラス、晴久勝ヲ其神ニ祈リ、新ニ祠堂ヲ建ルコトヲ誓ヒ、竟ニ火攻ヲ以テ之ヲ勦ス、是年、多賀久幸（守對馬）屋菅幸保（筑後守）ニ命ジテ社殿ヲ造營セシム、是ニ至テ成ル、（今ノ社即チ是ナリ）

五年（壬戌）五月朔、後藤勝基攻倉敷城、不克（美作古城記、作陽古簡集）

初メ勝基ノ尼子晴久ニ降ルヤ、晴久厚ク之ヲ待シ、其重臣河副久盛（美作守）ヲ倉敷城（倉敷村、三星城ト川ヲ隔テ、相對ス）ニ居キ、勝基ト俱ニ州ノ東境ヲ守護セシム、既ニシテ毛利元就威勢日ニ盛ンナリ、晴久毎戰利アラザルヲ以テ、勝基陰ニ浦上宗景ニ通ズ、是日、遂ニ倉敷城ヲ襲フ、久盛諜シテ之ヲ知リ、部士江見久次（左馬助）、水島右京助、長瀬三郎兵衛、難波長三郎、小坂田菅兵衛等ト、兵ヲ合セ城下ニ邀ヘ戰ヒ、大ニ之ヲ破リ、北ルヲ追テ三星城下ニ至ル、勝基急迫シ、城ニ入ル能ハズ、入田姒見（並勝南郡ノ村名）ノ間ニ返戰ス、殺傷頗ル多シ、龍門又一郎、宇根田太郎兵衛、德之丞（姓氏今詳ナラズ、或云安東氏）、城ヲ出テ横ニ久盛ヲ擊ツ、時ニ久盛ノ麾下江見秀房（若狭守、初右衛門太夫）、其子秀清（小太郎）ト、精兵五十ヲ以テ來リ援ク、勝基敗走ス、獨德之丞、江見久次ト槍戰數合シ、未ダ決セズ、流血淋漓タリ、久盛乃チ長瀬三郎兵衛、宇山七郎右衛門ニ命ジテ之ヲ止メシム、二人

命ヲ傳フ、德之亟曰ク、進退唯左馬君（久次）ニ在リ、久次曰ク、他日我ヲ辱ムルナクンバ命ニ從ハント、各鬪ヲ休ム、三郎兵衛德之亟ヲ三星城門ニ送致シテ還ル、（晴久秀房ニ與ル書、五月朔日ニ作ルヲ以テ、或ハ之ヲ四月中ノ事ト為ス、按ニ、晴久遠地ニ在リ、其戰日ヲ記シテ授ズルヲ者ナリ、故ニ久盛久次ニ授ル狀、五月朔日鎗戰云々ト為ス、）

八年乙丑。尼子義久使平野久利。（如ニ小田草城一乞ニ上兵。陰德太平記。）尼子氏圍ヲ受ル茲ニ六年、晴久既ニ卒ス、（永禄五年十一月二十四日、）將士或ハ沒シ或ハ叛シ、兵威振ハズ、義久（右衛門尉、晴久ノヘ子、）乃チ其臣平野久利（又右衛門、）ヲ召テ曰ク、作州ノ降將齋藤近實ヲシテ聲援ヲ為サシメバ、三浦蘆田諸氏必ズ應ゼン、汝宜ク往テ之ヲ圖ルベシ、久利對テ曰ク、舊勲ノ將士且叛ス、況ンヤ降將ヲヤ、寧ロ臣ヲ刃シテ其意ヲ斷ツベシ、義久聽カズ、久利迺チ妻孥ニ訣別シ、僕三人ヲ從ヘ、小田草城ニ到リ、謁ヲ近實（玄蕃、）ニ請フ、近實答フルニ明旦ヲ以テス、久利果メ其異心アルヲ知ル、黎明登テ內城ノ門ニ臨ム、壯士二百餘人、皆刃ヲ露ハシ將ニ擊ントス、久利夷然刀ヲ按シテ曰ク、久利敢テ悚ル者ニ非ラズ、請ヲ事ヲ國ニ報ジテ後徐ニ自裁センノミ、近實楢上ニ在リ、聲ヲ勵シ衆ヲ止ム、久利乃チ狀ヲ書シ、僕ニ命メ齋シ歸シメ、從容腹ヲ屠テ近實ヲ呼ブ、近實之ヲ稱揚ス、久利又僕ニ命メ首ヲ刎シム、近實其僕平野甚三郎

及ビ五郎次郎ヲシテ生還セシメントス、二人肯ンゼズ、相刺テ死ス、近實其首ヲ毛利氏ノ軍營出雲洗合ニ函送ス、明年、冨田城陷リ、尼子氏亡ブ、

十一月○三村家親拔二高田城一。作陽誌。三浦家記。常山記談。

家親紀伊守、備中毛利氏ニ屬シ、屢シバ月田鹿田兩郷眞島郡、ヲ侵セドモ、三浦氏ノ備ヘ嚴ナルヲ以テ、深ク入ルヲ得ズ、是年五月、尼子氏兵勢衰弱シ、援ヲ出スヿハザルヲ以テ、乃チ本州ニ入リ、江見左衛門佐等ト戰ヒ、尋デ後藤勝基ヲ三星城ニ攻ム、浦上宗景、宇喜多直家三郎左衛門、備前沼城主、後和泉守ト称ス、岡山城ニ徙居ス、大兵ヲ遣ハシ之ヲ援ク、家親下ス能ハズ、轉ジテ高田城ヲ攻ム、貞勝力屈シテ自殺ス、城陷ル、

九年○丙寅。二月○遠藤又次郎銃二殺家親一于二興善寺一。陰德太平記。作陽誌。備前軍記。常山記談。

家親、去年西郡ヲ略取ス、是月、亦南郡及ビ備前ヲ侵略セントト欲シ、兵ヲ率テ興善寺久米南條郡粮村、ニ屯ス、宇喜多直家、其臣遠藤又次郎後浮田河内ト称ス、及ビ弟喜三郎後浮田修理ト称ス、ノ嘗テ成羽ニ游ビ、家親ノ面貌ヲ識ルヲ以テ之ヲ圖ラシム、二人夜潛ニ寺中ニ入リ、障紙ニ孔シテ之ヲ覘フ、家親方ニ會議シ、殿面ニ坐ス、又次郎乃チ短銃ニ雙丸ヲ裝シ、之ヲ狙擊ス、丸其胸ヲ洞シテ死ス、三村氏ノ兵、喪ヲ秘シ軍ヲ整ヘテ去ル、西國

太平記、興善寺ヲ以テ佛教寺ト為ス、或ハ元亀三年八月十八日ノ事ト為ス者、皆誤ナリ、

是歳、三浦貞廣復高田城。作陽誌。三浦家記。客歳ヨリ三村氏ノ兵城ヲ守ル、會マ家親横死ス、貞廣乃チ叔父貞盛及ビ家士牧福島等ニ謀リ、攻テ之ヲ復ス、

十二年。己巳。六月。香川春繼拔高田城。作陽誌。三浦家記。○與陰德太平記。不合。尼子氏亡テ後、貞廣毛利氏ニ属ス、是年、元就九州ニ軍ス、中國ノ兵多クシテ之ニ從フ、於是、尼子氏ノ舊將山中幸盛鹿之助、立原幸隆備前守、○陰德太平記、日本外史、並ニ之綱ニ作ル、然ルニ本州ニ傳ル立原ノ真書ニ、皆幸隆ト為ス、故ニ幸隆ニ更メ、二書ニ據ラズ、尼子誠久ノ遺孤勝久ヲ擁シテ、出雲因幡伯耆ヲ略シ、本州及ビ三備ヲ煽動ス、貞廣輙チ之ニ應ズ、元就變ヲ聞キ、香川春繼兵部少輔、ヲシテ之ヲ擊シム、適ま貞廣備中ニ在リ、叔父貞盛留守ス、城兵金田源左衛門敵ニ内應シ、城陷リ、貞盛自殺ス、春繼城ニ入ル、

元龜元年。庚午。十月十五日。貞廣復高田城。作陽誌。三浦家記。

是年七月、貞廣其將玉串昭則監物、牧清冬、菅兵衛、春ノ孫、尚等ト、高田城ヲ攻メ、克タズ、昭則戰歿ス、乃チ援ヲ山中幸盛ニ乞フ、幸盛兵千餘人ヲ率ヰ來リ、其親戚ノ城中ニ居ル者ト、密ニ相通ズ、是日、内外夾擊シ、香川惣右衛門、財間新左衛門ヲ殺ス、春繼等皆走ル、貞廣又城ニ入ル、

是歳宇喜多氏將花房職秀、據荼神山城。（美作古城記、花房家記。）

當是時、直家尼子氏ニ屬シ、宗景毛利氏ニ屬ス、直家乃チ職秀（又三郎、後助兵衛職之、○作陽誌諸書ノ人ト為シ、生地ヲ詳ニセズ、）ニ命シテ敵地ヲ略取セシム、難波一族及ビ苅田小島氏等、力ヲ合セテ荼神山城（久米南條郡荼神山村、）ニ據ル、

一年。辛未。職秀拔篠山城。（美作古城記。花房家記。備前軍記。）

城（久米南條郡佐良村、一名佐良山城、）ハ毛利氏ノ將肥田左馬助、高橋四郎兵衛ノ守ル所ナリ、荼神山城ヲ距ル一里許、故ニ常ニ相覦フ、一日、職秀隙ニ乘ジテ之ヲ襲フ、左馬助等急遽戰フ能ハズ、城ヲ棄テ、走ル、職秀乃チ花房次郎四郎ヲ居テ去ル、（花房氏覺書ニ曰ク、亡幾又中島村嵯峨山城ヲ陷ル、）

職秀、與杉山為國戰于院庄、殺之。（作陽誌。美作古城記。作陽古簡集。）

為國（宗三郎、源兵衛為正ノ子、久米北條郡坪和郷ノ人、）立萬砦（同郡錦織村、）ヲ以テ毛利氏ニ屬ス、職秀神戸郷（西々條郡、）ヲ畧ント欲シ、兵ヲ院莊ニ出ス、為國逆ヘ戰ヒ、敗死ス、職秀ノ將難波信明（孫左衛門、行季ノ曾孫、）戰歿シ、苔口利長（宗十郎、）創ヲ被ル、直家片山秀能（左馬助、）ヲ構城（院庄村、）ニ居キ、其近邑ヲ守ラシム、（花房氏ノ臣小島二郎兵衛ノ手記ニ曰ク、職秀院庄城ヲ拔キ、神戸村ニ轉戰シ、勝ニ乘ジテ遂ニ古川村城ヲ陷ル、按ニ、古川村ニ城堡ナシ、而シテ其隣邑寺元村ニ一城墟アリ、古川村ニ接近ス、蓋シ是ヲ謂フ、）

天正三年。乙亥。三月十六日。牧清冬拔真木山城。（作陽誌。美作感狀記。）

（河原家記。）

先是、伊賀久隆（左衛門尉、備前虎倉城主、）鹿田郷（真島郡、）ヲ侵シ、兵ヲ真木山城（鹿田村、）ニ置キ、近邑ヲ蠶食ス、是夜、清冬手兵ヲ以テ一舉シ之ヲ拔ク、三浦貞廣大ニ悅ビ、以テ其城主ト為ス、

四月二十七日。草苅景繼有罪自殺。（草苅家記。）

先是、景繼（三郎左衛門、）ノ父衡繼（加賀守、）回幡濱山城ニ據テ毛利氏ニ屬ス、其後村上時泰（左京進、尼子晴久ノ臣、）ノ須邑加茂數村（東北條郡、）ヲ略取シ、矢筈山城（同郡知和山下兩村山城ナル者アリ、）ニ跨ル、其山腹ニ高徙居ス、是年、景繼陰ニ款ヲ織田氏ニ通ズ、毛利氏ノ族將小早川隆景大ニ怒リ、其族草苅左馬助亦次郎等ヲ召シ、景繼ノ不良ヲ責ノ、命ジテ自

裁セシム、左馬助等以テ告グ、景繼自殺ス、隆景乃チ其弟重繼（次郎、後太郎左衛門、又對馬守、）ヲシテ遺蹟ヲ襲ガシム、（景繼、児アリ平八ト称ス、乳母携テ英田郡原村安東治部ニ倚ル、後草苅次郎左衛門ト称スト云、）

四年。丙子。三月。三浦貞廣致高田城。（作陽誌。三浦家記。牧家記。）

初貞廣直家ト尼子氏ヲ助ク、其衰弱ニ及デ、直家毛利氏ニ屬ス、輝元（元就孫、）直家ノ疆冨ナルヲ以テ、待遇甚ダ厚ク、而ノ浦上宗景ヲ遇スル頗ル薄シ、宗景乃チ織田氏ニ屬ス、其後貞廣、宗景、及ビ三村元親（修理進、家親子、）ノ謀リ、款ヲ阿波三好氏ニ送リ、陰ニ毛利氏ヲ圖ル、去年、毛利氏、宇喜多氏兵ヲ合セ元親ヲ攻殺ス、是月、兵ヲ轉ジテ來リ攻ム、先鋒花房職秀、沼元景直、

新右衛門豊盛ノ子、多田山大坂郡三村、二陣ス、十六日、貞廣牧左馬助河内ノ弟三子、牧源之亟、石井源介ヲシテ之ヲ襲シム、三士驍勇、大ニ職秀ノ兵ヲ破ル、然レドモ宗景カ微ニシテ援ヲ出ス能ハズ、貞廣孤立シ、城將ニ陷ントス、直家之ト戚屬タリ、直家、嘗テ三浦貞勝ノ孀婦、其子桃壽ト備前ニ潛居スル者ヲ納レ、八郎秀家ヲ生ム、因テ說テ城ヲ致サシム、貞廣乃チ出テ直家ニ降ル、輝元猶寄元兼彈正忠、眞島郡月田山城主、ヲシテ移テ之ヲ守ラシム、三浦氏、其先下野守平貞宗、始テ高田城ニ徙リシヨリ、貞廣ニ至テ十二世ナリ、是ニ於テ家聲終ニ墜ツ、○高田城ノ記事、諸書晦澁ニシテ齟齬アリ、而ノ三浦家記、毛利家記、及ビ牧氏、美甘氏ノ傳書ニ據ル、概ネ此ノ如シ、然レ氏其實ヲ得ルヤ否ヲ知ラズ、

五年。丁卯。四月。新免貞弘射殺井口貞詮。美作古城記。新免家記。

貞詮長兵衛、八赤田山城主吉野郡赤田村、ナリ、初メ新免宗貫伊賀守、宗貞ノ子、同郡下町村竹山城主、ト共ニ宇喜多氏ニ屬ス、是年、貞詮草苅重繼ノ兵ヲ假リ、宗貫ノ邑ヲ掠ム、宗貫乃チ叔父貞弘備中守、ヲ遣ハシ之ヲ討シム、貞詮敗レテ其山下ノ邸ニ匿ル、貞弘法天山赤田山ト相對シ、貞詮ノ邸前ニ聳立ス、ニ上リ、大呼シテ曰ク、汝尚ホ活ヲ冒ムル耶、貞詮乃チ其邸ニ火シ、馬ニ鞭テ出ヅ、貞弘射テ之ヲ殪ス、此役、新免氏ノ士平尾無二齋、敵八人ヲ殺傷ス、新免次郎九郎、新免權八郎、本位田源太郎等、戰死ス、

七月八日。延原家次等攻蓮華寺城。美作古城記。小坂家記。

當是時、宗景直家相凌轢シ、互ニ將士ヲ招キ自ラ備フ、蓮華寺城久米南條郡全間村、主難波十郎左衛門、及ビ菅納

家晴（五郎右衛門）、沼元豐盛（彦右衛門、同郡宮地村ニ居ル）、三浦源十郎、川島玄蕃等、皆直家ニ應ズ、宗景怒ル、其臣延原家次（内蔵亮）、岡本氏秀（太郎左衛門）ヲシテ兵三百ヲ率ヰ、小坂與三郎（彌三郎ノ子、本郡弓削村秋小屋ニ居ル、小屋ハ小堡ノ称ナリ）ヲ以テ嚮導ト為シ、之ヲ討シム、是日、夜ニ乘ジテ城ヲ襲フ、與三郎先登シ、射テ源十郎ヲ殺ス、城殆ンド陷ル、難波忠兵衛、菅納三郎右衛門等力戰シテ、遂ニ之ヲ卻ク、家次創ヲ被リ兵ヲ收ム、流言アリ、直家天神山（宗景居城ノ）ヲ攻ムト、乃チ圍ヲ解テ去ル、

六年。戊寅。五月二十五日。日蓮宗徒。冠誕生寺。（作陽誌。誕生寺舊記。）先是、備前松田氏（金川城主）、日蓮宗ヲ崇信ス、浦上宗景ノ宰（日笠頼房（次郎兵衛）、沼元久家（典太郎）亦之ヲ崇信シ、妙福寺ヲ福渡村（久米南條郡）ニ創建シ、僧日典等ヲシテ他宗ヲ強誘セシム、直家亦益マス之ヲ信ジ、遂ニ領内ニ令シテ悉ク改宗セシメ、拒ム者ハ之ヲ逐フ、僧為ニ寺ヲ棄テ逃ル者多シ、獨リ誕生寺僧深譽屈セズ、是日、日蓮宗徒二百餘人、亂入シ、堂宇ヲ破壞シテ去ル、（守喜多氏亡後、深譽安藝嚴島僧運譽ト謀リ、京師智恩院ニ請ヒ、堂宇ヲ修營ス、）

六月二十八日。牧左馬助戰ニ于播磨上月。（牧左馬助覺書。陰德太平記。）三浦氏城ヲ致シテ後、左馬助、伯耆南條元續（伯耆守）ニ寄食ス、是年、尼子勝久、山中幸盛等、播磨上月城ヲ取リ、又本州ヲ侵ントス、毛利輝元、乃チ出テ備中松山

二陣ス、其族将吉川元春、出雲冨田ヲ發シ、元續等ヲ率ヰテ、小早川隆景ニ高田村（郡、島）ニ會シ、三月、進テ上月城ヲ圍ム、羽柴秀吉、大兵ヲ率ヰ勝久ヲ援ケ、高倉山ニ軍ス、其兵毎ニ馬ヲ熊見川ニ洗フ、宇喜多氏ノ將中村三郎左衛門（陰德太平記、三星城主ト為ス）、兵ヲ伏セテ之ヲ俟ツ、是日、初テ兵ヲ交フ、敵將中村弥平次、神子田判左衛門、兵三千ヲ率ヰ、高倉山ヲ下テ之ヲ包擊ス、左馬助元續ノ將山田備中ト之ヲ援ヒ、共ニ槍ヲ揮ヒ奮戰ス、備中重創ヲ被ル、左馬助扶ケテ元續ノ營ニ歸ル、元續大ニ之ヲ賞ス、（七月、上月城陷ル、左馬助氏ニ仕フ、後元續ヲ辞シテ宇喜多）

七月。新免宗貫兵。擊殺草苅重久。（草苅家記。美作古城記。中西家記。新免家記。）先是、重繼播磨宍粟郡ヲ略ス、是月、其弟重久（與次郎、）兵ヲ率ヰ粟倉莊（吉郡、野）ニ入ル、宗貫乃チ麾下春名重勝（三之丞、同郡古町村ノ人、）ヲシテ之ヲ擊シム、重勝飛ケ谷（同郡長尾村、）ニ逆ヘ戰フ、重久遂ニ敗死ス、（重久ノ墓、長尾村ニ在リ、影石村ニ在リト為ス者、誤ナリ、）

七年。（己卯）二月。吉川元春。連陷二兩寺畑。篠葺諸城。（備前軍記。草苅家記。）大寺畑（大庭郡、）小寺畑（同郡坂村、）三兩城ハ、牧尚春、牧清冬（三浦氏亡後、宇喜多氏ニ仕ス、）ノ據ル所ナリ、去年、直家毛利氏ニ叛キ、織田氏ニ屬ス、乃チ江原親次（又四郎、後兵庫助、）浮田直重（石見、）ニ命ジテ大寺畑ヲ、蘆田太郎ニ小寺畑ヲ、市義直

三郎兵衛、市五郎兵衛、玉串與十郎ニ篠葺城ヲ援ケ守ラシメ以テ之ニ備フ、是月、元春兵三千ヲ督シ來リ、草苅重継今田玄蕃ヲシテ之ヲ攻シム、防戰累日、殺傷過當、太郎親次等、乃チ逃テ篠葺城ニ入リ、力ヲ戮セ堅ク守ル、元春親ラ攻テ之ヲ陷ル、此役、敵兵牧尚春押送ス、尚春年既ニ八十、輝元之ヲ壯トシ放チ還ラシム、○殘太平記ニ、兩寺畑ノ攻手ヲ草苅重継一人ト為ス、又云、直家羽柴秀吉ノ兵ヲ合セ、六千餘人ヲ以テ來リ援ク、重継下ス能ハズシテ退ク、直家尾撃シ其矢筈山城ヲ圍ム、小早川隆景、乃チ宍戸隆家、里見貞頼ニ命ジ、兵一萬人ヲ將ヰテ之ヲ救ハシム、直家其鋭ヲ避ケ、四月十七日、軍ヲ班シテ岡山ニ還ル、此説備前軍記ニ合ハズシテ、草苅家記ト稍似ル所アリ、故ニ附録シテ參考ニ備フ、

三月、元春攻二宮山城一不レ下。備前軍記。花房家記。

義直親次等、篠葺城ノ守ヲ失ヒ、退テ宮山城（真島郡市瀬村、篠葺城ヲ距ル里餘ニ據ル、）元春又來リ攻ム、累日決セズ、一日、城兵敵ノ浴室ヲ襲フ、敵兵沓至シ之ヲ援フ、城兵亦大ニ出テ、一隊ヲ竹蔭ニ伏セ、一隊ヲシテ戰ヲ挑マシム、元春自ラ兵ヲ麾テ進ミ、伏ニ逢フ、井上左馬允、森脇弥五郎、小笠原二郎左衛門等死傷シ、總兵潰亂ス、元春乃チ銃手ヲ殿セシメテ退ク、（花房氏傳書ニ曰ク、宮山城ハ、直家毛利氏ニ叛キ、羽柴氏ニ屬スルニ當テ之ヲ築キ、某ヲシテ守ラシメ、而メ岡山ヨリ宮山ニ至ル中間ニ、四城ヲ置キ通路ヲ便ニス、吉川小早川來リ攻ム、四城主或ハ逃レ或ハ降ル、獨リ某屈セズ、小早川ト砲戰シ、其將児玉十兵衛ヲ殺ス、小早川乃チ城ヲ横山ニ築キ、此ニ據ル、此役、城士大蔵佐吉等戰死ス、明年、小早川三村孫太郎等ヲ留メテ去ル、後吉川又來リ圍ミ、城士肥多權之丞ヲ誘ヒ、其端火ニ應ジテ逼

ル、城兵力拒シ、殺傷過當ナリ、吉川遂ニ拔ク能ハズシテ去ル、其後宮山孤立シ、外ニ援城ナキヲ以テ、直家某ニ命ジテ某ニ賜フ、市正、大森傳右衛門ノ祿邑ヲ以テ某ニ賜フ、市大森ハ皆四城主ノ一ナリ、某籠城三年ニシテ歸シ天正六年ヨリ八年ニ至ル間ヲ記セズト雖トモ、蓋シ天正六年ヨリ八年ニ至ル間ノ事ナラン、作陽誌ニ曰ク、宮山城ハ市三郎兵衛小瀬中務ノ所ナリ、中務ノ部士妹尾孫九郎、敵將柴田權左衛門ヲ斬ルト、亦當時ノ事ナラン乎、并セ錄シテ後ノ備考トス、

直家攻二升形山城一、不レ降。美作古城記。矢野雜記。備前軍記。作陽誌。

城西北條郡藤屋村、ハ峻山ノ巔ニ在リ、頗ル要害ノ地タリ、福田勝昌蕃據テ以テ毛利氏ニ屬ス、直家ノ織田氏ニ屬スルヤ、輝元、元春ニ謀リ、吉田元重肥前守、森脇春方市郎右衛門、安黒勝重與一右衛門、矢野孫六後又右衛門、等ヲシテ兵五百ヲ以テ援ケ守ラシム、是月、直家兵二萬餘人ヲ將ヰテ寺畑篠葺諸城ヲ復シ、遂ニ來リ攻ム、勝昌ノ將大塚某、山腹ノ支城ヲ守ル、一日、直家衆ヲ鼓シ仰ギ攻ム、大塚之ヲ嶮阻ニ要擊ス、本城ノ兵モ亦善ク拒グ、一以テ百ニ當ラザルハナシ、敵兵踏跙辟易ス、大塚挺進彌突奮戰シテ死ス、夜ニ入リ兩軍交綏ス、明旦、直家又將ニ攻ントス、其弟忠家七郎兵衛、堅城兵ヲ頓ラスハ計ニ非ザルヲ以テ之ヲ止ム、直家乃チ軍ヲ班ス、備中府志ニ曰ク、天正二年十二月、川上郡國吉城陷ル、主將三村政親ノ族須藤大藏介、大塚左衛門尉等、美作ニ逃奔スト、按ニ本傳ニ所謂大塚某ハ、即チ左衛門尉ノ事ナラン乎、

岡家利。斬二村上勘兵衛一。備前軍記。

勘兵衛毛利氏ニ屬シ、守喜多氏ノ兵ト戰ヒ、每ニ利

アリ、是月、出テ垪和三宮（久米北條郡）ニ陣ス、直家之ヲ攻メ、隊長浮田修理、浮田太郎左衛門、池田八右衛門等ヲ召テ、軍事ヲ議ス、戸川秀安（平右衛門）、岡家利（平内、後豐前守、○備前軍記、家利ヲ利勝ニ作ル、今久米南條郡神目村菅氏、真島郡関村鈴木氏ニ傳ル平内ノ自筆ニ據ル、蓋シ利勝ハ其子越前守ノ名ナリ）、長船又三郎（後紀伊守）、一室ヲ隔テ之ヲ聞ク、家利艴然軍議ノ已ニ及バザルヲ忿リ、翌曉、獨其臣半井原某ヲ從ヘ、三宮ニ抵リ、且罵リ且進ム、勘兵衛出テ拒ク、家利馬ヲ躍シ進ミ、與ニ搏テ之ヲ伏ス、勘兵衛ノ妹薙刀ヲ提ゲ來テ、家利ヲ斫ル、刀脛繳ニ中リ、身ニ及バズ、半井原馳セ至リ、擊テ之ヲ走ラス、家利遂ニ勘兵衛ヲ斬ル、直家大ニ之ヲ賞ス、（家利、前夜半井原ニ謂テ曰ク、我鐵脛繳重シテ進退ニ難シ、汝ガ行勝ヲ以テ之ニ易ヘヨ、半井原對テ曰ク、君騎シ以テ進ム、何ノ難キカ之レ有ラン、奴ハ則チ徒歩、行勝ニ非ザレバ不可ト、固ク辭ス、家利是ヲ以テ遂ニ傷セズト云フ、○作陽誌ニ曰ク、天正四年三月三日、村上左衛門尉久成、垪和三宮ニ陣ス、花房職秀、岡家利、道ヲ分テ來リ攻ム、久成拒戰シ大ニ敗レ、家利ニ殺サルト、是本傳ニ載スル所ト、年紀及ビ事實異ナルアリト雖ドモ、蓋シ同一事ナラン、久成ハ久米北條郡倭文莊油木村ノ人ナリ、）

花房職秀拔神樂尾山城。（美作古城記。美作感狀記。）

先是、毛利氏其將大蔵尚清（甚兵衛）、千馬三郎右衛門ヲ神樂尾山城（西北條田邑村）ニ居ク、既ニシテ三郎右衛門異志アリ、事覺ハレ、土居康方（四郎次郎、伊豫河野氏ノ族ナリ、同村ニ移住シテ毛利氏ニ屬ス）、ニ殺サル、其後尚清軍事ヲ擅ニシ、常ニ荒神山城ヲ覦ガフ、職秀初メ家士ヲ戸川驛（今津山市中ニ屬ス、）

ニ出シ、偽テ賈人ト為シ、縱テ敵狀ヲ探ラシム、是月十日、神樂尾山城ニ入リ、襲擊ノ狀アルヲ知ル、即チ馳セ歸テ職秀ニ報ズ、職秀乃兵ヲ伏テ之ヲ俟ツ、夜半、尚清京神山城下ニ出テ、大ニ鬨ス、伏兵乃チ其背ニ起ル、職秀之ト夾ミ擊ツ、尚清ノ兵潰亂シ、相踏籍シテ走ル、其戸川ニ在ル者、之ニ乘ジテ火ヲ神樂尾山城ニ縱ツ、追兵沓至シ、遂ニ之ヲ陷ル、此役、苫口利長、難波信正（弥九郎、信明ノ子、）先登シ功アリ、

四月。新免宗貫攻ニ矢筈山城。不レ克。（草苅家記。草苅系圖。）

直家宗貫ヲシテ矢筈山城ヲ攻シム、城堅シテ拔ク能ハズ、一日、宗貫兵ヲ路ニ伏セ、城下ニ戰ヒ佯リ走ル、城主草苅重繼ノ族某、數騎ト追躡シ、伏ニ遭テ死ス、重繼大ニ憤リ、其夜、黑岩吉弘（土佐、）山口太郎右衛門等ニ命シテ潛ニ敵背ニ出シメ、自ラ勁兵ヲ督シ、曉ニ來ジテ宗貫ノ營ヲ斫ル、吉弘等乃チ火ヲ縱チ其横ヲ衝ク、宗貫ノ兵大ニ敗レ、死スル者筭ナシ、（草苅家記、）

五月。宇喜多忠家等陷ニ三星城。（美作古城記。下山家記。）〇與ニ三星記一不レ合。（小原新明ニ作ル、小原ハ郷名太原ノ訛ニノ、新明ハ新免ノ誤ナリ、方言新免ヲ呼テ新明ト云フ、）

先是、（天正五年七月、或ハ八月、）直家天神山城ヲ攻メ、宗景ヲ逐ヒ其國ヲ奪フ、宗景ノ將士、多ク直家ニ降ル、獨リ後藤元政（與四郎、勝基ノ子、）其不義ヲ惡ミ、肯テ降ラズ、直家大ニ怒ル、是年三月、延原景能（彈正忠、）花房職秀ヲシテ之ヲ討

シム、景能等乃チ攻テ笹部勘次郎（備前周匝村城主、）ヲ殺シ、進テ鷲山城（勝南郡飯岡村、）ヲ攻ム、城主星賀光重（藤内、）自殺シ、其宰秋山十右衛門、大澤十郎右衛門等戰死ス、尋デ鷹巣城（英田郡海田村、）ヲ攻ム、城士清水帶刀、敵ノ隊長池土佐（備前田土村ノ人、）ト鬪テ殺サル、其僕廣田七兵衛、土佐ヲ斬リ主仇ヲ復ス、敵火ヲ縱チ烟ニ乘ジテ進ム、火延テ城ニ及ブ、城主江見越中鬪死ス、（越中帶刀ノ墓、共ニ海田村ニ在リ、）衆遁レテ三鎗（天正七年四月十七日死ト曰フ、帶刀ノ裔、本郡北原村某ノ立ル所ナリ、）星城（勝南郡姙見村、）ニ入ル、景能等又進テ三星城ヲ攻ム、連戰決セズ、退テ鳥奥塔（同郡位田村、）ヲ修シ、此ニ據ル、名ケテ勝間城（城名、蓋シ捷ヲ獲ルノ間、此ノ意ニ取ルナリ、）ト曰フ、元政ノ

部將難波利助（初長三郎、）安東左右馬助、小坂田勘兵衛、瀧門又一郎、水島久作、柳澤太郎兵衛、福田左内等、浦上氏ノ遺臣後藤久元（河内、）下山正氏（半内、）難波三郎右衛門（備前由津利村ノ人、）及ビ英田、吉野、勝南、勝北諸郡ノ援兵ト、諸壘ヲ守リ善ク戰フ、直家之ヲ聞キ、弟忠家ヲ遣ハン援ケ攻シム、城兵遂ニ窘蹙ス、至是城陷ル、元政逃テ長内村（同郡、）ニ至リ、追兵ニ逼ラレテ自裁ス、（三星記、下山家記、並ニ當時ノ城主ヲ攝津守勝基ト為ス、獨リ美作古城記ニ、與四郎元政ト為シ、証ヲ引テ曰ク、勝基ハ天文元亀年間ノ主ナリ、故ニ天正中三星城ヨリ出ス所ノ書皆元政ト為スト、又勝南郡位田村和田氏ニ傳ル和田助安衛ノ手書ニ曰ク、伯父和田甚助、後藤勝基、元政ニ世ニ歷仕シ、元政死後本邑ニ歸耕スト、於是、勝基ニ非ラズシテ、元政ナルヲ確信ス、故ニ二書ニ據ラズ、○陰德太平記ニ云ク、天正六年八月二日、直

家三星城主中村某ヲ攻殺スト、今其由ル所ヲ知ラズ、

是歳多胡基辰斬鹽屋左助。美作古城記。醫王山記。

尼子氏亡ビテ後基辰源三郎、父基信四郎衛門、右ト綾部村東北條郡、ニ來住シ、守喜多氏ニ属ス、常ニ岩尾山城同郡、一ニ祝山或ハ醫王山ニ作リ、ヲ覬フ、一日、城將鹽屋佐助父豊ル、毛利氏ノ属城ナリ、田獵スト聞キ、之ヲ肩返ニ要後守、及ビ弟木工助ト共ニ岩尾山城ヲ守ル、シ、克タズシテ走ル、左助乃チ槍ヲ揮ヒ之ヲ刺ス、基辰身ヲ飜シテ回避ス、槍鋒松樹ニ入ル、將ニ刀ヲ抽ントス、基辰遂ニ左助ヲ斬ル、陰徳太平記、備前軍記、波六右衛門ト為シ、而テ多胡ノ事ヲ載セズ、醫王山記、古城記、左助ヲ殺ス者、多胡基辰ト為シ、木工助ヲ斬ル者、難波信正ト為ス、此説是ナリ、

杉原盛重攻湯山城。牧左馬助等。擊郤之。牧左馬助覺書、作陽古簡集。

輝元及ビ元春、隆景大舉シテ本州ニ入ル、直家浮田平右衛門ヲ湯山城大庭郡湯本村、ニ居キ、牧左馬助、牧源之亟ヲシテ援ケ守ラシム、輝元ノ將杉原盛重播磨守、真島郡藤森村飯山城ニ據ル、兵五千人ヲ率ヰ、大沼山同郡向湯原村、ニ陣シ、其三千ヲ以テ高田川ヲ濟リ、外城ニ逼ル、時ニ左馬助、源之亟、牙城ニ在リ、機ヲ覘テ突出シ、其前隊ヲ破ル、全軍逡巡進ム能ハズ、二人裸跣シ、川ヲ越テ之ヲ追フ、敵兵高橋某、返戰シテ左馬助ニ薄ル、左馬助相搏テ其首ヲ斬ル、後勝敗久ク決セズ、一夜盛重城下ニ來リ、城兵ヲ要擊ス、左馬助及ビ牧玄蕃、石井源介、

擊テ之ヲ土居村（同郡ニ）走ラス、（是年十月、元春瀧門テ勝北郡ヲ畧セシム、其令牒ニ據テ之ヲ考フルニ、是役ヤ、蓋シ十月ノ交ナラン、○當ニ是時、藝備ノ將士、國中ニ割據シ、互ニ相攻守スル者、數フルニ勝ユ可ラズ、余野村ニツ山城、横野村利元城、吉見村ニ岩尾山城ノ如キハ、特ニ甚シ、花房、田口、牧、前原諸氏ニ傳フル書、是等ニ關スル者アリト雖ドモ、皆其顛末ヲ詳ニセズ、因テ姑ク之ヲ缺ク、）

八年。（康辰）二月。直家攻ニ高城。不レ下。（作陽誌。小坂家記。竹内家記。）

城久米北條郡和田南村、八竹内為能善十郎、併和四郎兵衛、新三郎為且ノ子、八杉山久正ノ據ル所ナリ、竹内杉山ハ同族ニシテ、世々併和郷ニ住シ、尼子氏ニ屬ス、尼子氏亡テ後、孑然孤立ス、近年、藝備干戈止ムナク、國中擾亂シ、終ニ獨立ス可ラザルヲ以テ、為能乃チ二弟為明（宗四郎）、為信（孫三郎）、從弟竹内久盛（中務亟、杉山備中守為就ノ第二子、中併和谷村一瀨城主、竹内流ノ開祖ナリ、）及ビ杉山為忠（又三郎、源兵衛為正ノ第四子）等ト、族ヲ擧テ毛利氏ニ屬ス、輝元大ニ喜ビ、庄多沼部、石蟹其ヲ以テ應援トシ、庄原兵部ヲ以テ檢使トシ之ヲ遣ハス、且成羽越前守、粟屋惣兵衛ニ命ジテ緩急相援ハシム、岸氏秀（備前守、久米南條郡粉村龍王山城主、）難波左馬進、菱川源四郎等、亦來テ城中ニ在リ、直家乃チ兵ヲ發シ明石行雄（飛彈守、）平尾彈正忠、菱川源太ヲ以テ先鋒ト為シ、戸川秀安、岡家利ヲシテ之ニ繼ガシム、行雄等、蘄尾山、松端山（並久米北條郡三明寺村、）ニ陣シ、日ニ戰ヲ挑ム、三月十七日、為忠、夜蘄尾山ノ營ヲ斫リ、擊テ行雄ヲ走ラ

ス、久正亦源太ヲ岩柄（同郡上打穴村）ニ擊テ之ヲ殺ス、閏三月、久正又彈正忠ヲ斬ル、城將岸氏秀戰死ス、其部士赤木彌三郎亦小坂與三郎（浦上氏亡後、宇喜多氏ニ仕フ）ノ殺ス所ト為ル、此時ニ當リ、輝元直家ト將ニ雌雄ヲ決セントシ、三吉隆慶、平賀元祐、志道廣好ヲシテ赴キ援ケシム、直家藝兵ノ日ニ加フルヲ聞キ、四月、自ラ精兵ヲ將ヰ、佛教寺（久米南條郡佛教寺村）ニ陣シ、二十八日、大舉シテ城ヲ攻ム、城兵能ク拒グ、遂ニ下ス能ハズ、新免氏ノ麾下春名重勝、先登シテ、城士河本又四郎ヲ斬ル、明年二月十四日、直家卒ス、年五十三、子秀家猶幼ナキヲ以テ喪ヲ秘シ、十年正月九日ニ至テ、之ヲ發ス、

九年。辛巳。六月二十五日。中村頼宗陷二岩屋城一。（作陽誌。岩屋軍記。）

先是、直家岩屋城ヲ取リ、濱口家職（通称詳ラカニシズ、或云淡路ヲシテ守シム、家職酒色ニ沈湎シ、衆心頗ル離ル、輝元乃チ中村頼宗（大炊助、西々條郡山城村葛下城主）、大原主計助（同郡養野村西浦城主）ニ命ジテ之ヲ圖ラシム、主計助其城後嶮ニシテ守兵ヲ置カザルヲ知リ、西尾與九郎、武本又三郎、武本源兵衛、立石久泰（孫一郎、久朝ノ孫）、辻正忠（新次郎、越尾秀忠ノ曾孫）、櫻井直喬（藤兵衛、直豊ノ子）、片山久亂（初宇喜多氏ニ仕フ）、大林久助、原田藤七郎、須藤市右衛門等壯士（年二十ヨリ四十ニ至ル、三十二人）ヲ揀ビ、是夜、風雨ニ乘ジテ、城後ヨリ巖ニ縋ジ樹ヲ攀ヂ、城ニ登テ吶喊ス、頼宗ノ部下櫻井直豊（越中）、木村政綱（勘兵衛）等之ニ應ジ、鼓噪シテ城門ニ逼ル、城兵倉

皇シテ間道ヨリ逃走シ、路ヲ爭ヒ相蹂踐シ、或ハ崖谷ニ顛墜シテ死スル者多シ、頼宗捷ヲ輝元ニ報ズ、輝元及ビ隆景、感状ヲ主計助與九郎等三十三人ニ授ケ、頼宗ヲ以テ岩屋城主ト為ス、（頼宗、岩屋城ニ徙リ、共宰浅山圖書ヲシテ葛下城ヲ守ラシム、後頼宗安藝ニ歸ルニ及ビ、圖書城ヲ火シテ投死スト云、）

十月。羽柴秀吉遣レ兵攻ニ矢筈山城。（草苅家記。中西家記。）

是歳、秀吉大舉シ因幡鳥取城ヲ攻ム、城主吉川經家自殺シ、城陷ル、元春乃チ鋭ヲ慫シテ伯耆羽衣石城（一ニ植石ニ作ル、）ヲ攻ム、秀吉之ヲ援フ、而メ矢筈山城主南條勘兵衛、東北條郡、淀山幡、二城ノ兵其後ヲ斷ツヲ恐レ、亀井茲矩（新十郎、後武蔵守、）木下某（後備中守、）等ヲシテ矢筈山城ヲ攻シム、城險ニシテ輙ク下ス能ハズ、茲矩落合壘（同郡百村、）ヲ修シ、木下及ビ隱岐土佐（隱岐、一ニ祖與ニ作ル、）ヲ留メテ、自ラ因幡ニ入ル、城主草苅重繼、其臣塚原一傳齋、進市兵衛、内田源兵衛等ヲシテ雪夜ニ乘ジテ壘ヲ襲ハシメ、土佐ヲ殺シ、木下ヲ走ラス、黑岩吉弘、草苅左近亮、中西吉蕃（木ヱ九、）ヲ進市兵衛等、乃チ之ヲ守ル、

是歳。中村頼宗兵。攻ニ月澤城。（牧左馬助覺書。）

城（真島郡中村、）初メ毛利氏ニ屬ス、宇喜多氏之ヲ拔キ、北直利（右衛門督、）牧左馬助ヲシテ守シム、是年、頼宗ノ兵來リ攻ム、左馬助、澤源次兵衛ト共ニ邀ヘ戰ヒ、源次兵衛鬪死ス、左馬助槍ヲ執リ、力戰シテ之ヲ卻ク、（作陽誌、久

米北條郡倭文莊ノ事ト為ス、非ナリ、

十年。壬春。毛利氏兵拔二西屋城一。美作古城記。作陽誌。

先是、花房職秀、西屋城西々條郡西屋村、ヲ取リ、苫口利長、難波信正等ヲシテ之ヲ戍ラシム、中村頼宗ノ部下櫻井直喬、櫻井久次郎、武本又三郎、近郷ニ在リ、常ニ之ヲ覘フ、直家因テ齋藤近實ニ命ジテ援ケ守シム、去年、毛利氏ノ兵來リ攻ム、城兵拒戰屈セズ、敵持久ノ計ヲ為ス、已ニシテ城中糧乏シ、每夜竊ニ出テ近邑ノ稻禾ヲ穫ル、九月八日ノ夜、近實ノ部下原兵衛、樽瀬同郡坂村、井ニ至ル、牧成氏弥太郎、來リ襲フ、兵衛從者ト銃ヲ發シテ之ヲ斃ス、後數旬、深雪ニ屬ヒ、圍ヲ解テ去ル、至是、又來リ圍ム、城兵遂ニ守ヲ失ヒ、城ヲ棄テ走ル、初城兵坂手某兄弟、共ニオカヲ恃テ倨慢ナリ、一日、近實將士ヲ會シ宴飲ス、兄弟歌ヲ作テ近實ヲ諷刺ス、其意功ヲ恃ミ能ニ矜ル、近實大ニ怒リ、兄弟ヲ虐殺ス、此ヲ以テ其族敵ニ投シテ城中ノ利害ヲ告グ、故ニ守備ヲ失フト云フ、

是歲。明人田洪等。寄二納佛繪于一誕生寺一。作陽誌。

明國田洪兩主靈駕、張旭保休、李壽兩主靈默比丘等八人、墨畫ノ觀音、釋迦、文殊、普賢ノ像、及ビ僧法然誕生ノ圖ヲ寄贈ス、書ニ曰ク、和國作刈誕生寺元祖前、

萬曆十年壬午四月、

十一年。癸未。六月。毛利氏兵拔二搆城一。守喜多氏兵輙復レ之。作陽家記。

客歳六月、羽柴秀吉、輝元ト和シ、備中河邊川以東ヲ收メ、本州ヲ以テ宇喜多秀家ニ與フ、毛利氏ノ將士大ニ憤リ、輝元モ亦之ヲ悔ユ、中村頼宗（岩屋城主）、猶寄元兼（高田城主）、草苅重繼（矢筈山城主）等、各死ヲ以テ城ヲ守ル、輝元大ニ喜ビ、密ニ兵食ヲ送ル、秀家亦兵ヲ諸城ニ增シ、且將士ヲ招ク、鈴木近重（孫右衛門、眞島郡眞木山城主）等之ニ應ズ、至リ是、藝兵宇喜多氏ノ構城（西々條郡圓宗寺村、當時沖構城ト稱セリ）ヲ攻ム、城四面壕ヲ鑿ツヲ以テ、容易スク拔ケズ、退テ大田和山（同郡竹田村）、茶臼山（同郡寺元村）ニ陣シ、砲墩ヲ大田和山ノ東角ニ築キ、城中ヲ狙擊ス、相距ル約三町、彈丸命中セザルナシ、備兵潰走ス、藝兵城ニ入ル、七月、花房職之（職秀ノ稱ナリ、改）兵ヲ率ヰテ之ヲ圍ム、一日、城兵武本源兵衛、銃手ヲ以テ職之ノ營ヲ襲ヒ、數十人ヲ殺傷ス、其後職之ノ部士難波又一郎、城將其ヲ斬リ、竟ニ城ヲ復ス、秀家乃チ蘆田右馬丞、及其子作内ヲシテ之ヲ守シム（作陽誌、芦田ヲ蘆高ニ作ル、誤ナリ、作内八百石ヲ食ム、宇喜多氏亡後、西北條郡田辺村湯谷ニ住ス、）

八月、草苅重繼遣ル兵拔ニ佐良山城（作陽誌。草苅家記。殘太平記。）城（中島村、）ハ宇喜多氏ノ將河橋弥五郎等、兵五百餘人ヲ以テ守ル所ナリ、是月十六日、重繼、草苅右馬亮、黒岩吉弘、有元弥九郎、寺坂桃千代、中島助次郎等ニ命ジテ之ヲ攻シム、數日ニシテ城陷ル、

十二年。甲申。三月。戸川秀安。岡家利芽。圍岩屋城。岩屋陣取。岡作陽誌。秀家諸將士ヲ遣ハシ、岩屋城ヲ攻シム、河端右近、城東的場山地名、以下皆同ジ、ニ、小瀬修理、井ノ奥ニ、戸川秀安、城西石蔵ニ、齋藤五郎右衛門、城南往還ノ上ニ、岡家利、樂滿ノ上ニ、花房職之、岩屋寺ノ上ニ、長船又右衛門、柿木ノ上ニ、浦上與九郎、杉原木工、荒神ノ上ニ、江原親次、城北梅ガ山ニ、杉原下野、遣手場ノ上ニ陣ス、是ヨリ攻戰息マズ、互ニ勝敗アリ、

十二月。毛利氏與宇喜多氏平。藝兵致城去。作陽誌。草苅家記。備中称屋家記。

先是、前將軍足利義昭、備後鞆津ニ寓ス、毛利宇喜多二氏ノ私戰休マザルヲ視テ、講和セシメント欲シ、之ヲ羽柴秀吉ニ謀ル、秀吉乃チ黒田孝高、蜂須賀家政ヲ作州ニ遣ハシ、義昭ハ福井又兵衛、矢島惣八郎ヲ遣ハシ、以テ二氏ヲ和ス、輝元亦井上新兵衛ヲ使シ元春青木木工助ヲ使シ、説テ兵ヲ輟シム、藝備ノ士卒、頗ル軍事ヲ厭フ、中村頼宗、草苅重繼等、皆城ヲ致シテ安藝ニ歸ル、於是、闔州宇喜多氏ニ屬ス、

後陽成天皇。文祿三年。甲午。花房職之諫秀家。秀家幽之。備前軍記。美作古城記。

朝鮮ノ役後、秀家益マス驕侈、國用給セズ、寵臣長船貞行、紀伊守、伊封内ノ田畝ヲ大量シ、且將士及ビ寺祠ノ

食邑ヲ削奪シ、高二十五萬石ヲ獲タリ、（本州社寺ノ領邑ハ、多ク文祿四年ニ没収ス、）於是、士庶困苦シ、怨嗟塗ニ盈ツ、職之之ヲ憂ヒ、切ニ秀家ヲ諫ム、秀家大ニ怒リ、之ヲ其岡山ノ私邸ニ幽シ、又將ニ殺ントシ、之ヲ秀吉ニ申稟ス、秀吉其小田原朝鮮ノ二役ニ、勲功アルヲ以テ許サズ、職之又ビ其子職則（五郎左衛門、）ヲ伏水ニ召シ、佐竹義宣（常陸國主、）ニ附ス、苦口利長難波信正、栄田與一郎等、乃チ茨神山城ヲ棄テヽ去ル、是ヨリ宇喜多氏ノ將士、稍危懼ヲ生ズト云、（關ガ原ノ役、職之ノ德川氏ニ從ヒ、備功アリ、采邑ヲ備中高松ニ賜フ、元和三年二月卒ス、年六十九、）

文祿中。三井彦四郎獲鯢魚。（作陽誌。）

高田川ニ鯢魚淵（真島郡向湯原村、）アリ、一日、水中異光ヲ現ハス、村人之ヲ覘ヒ、大鯢魚ヲ見ル、彦四郎ナル者、年少シテ頗ル膽力アリ、刀ヲ手ニシ、組ヲ帶テ水中ニ入ル、鯢之ヲ呑ム、彦四郎其腹ヲ割キ、組ヲ縈テ浮ブ、村人數輩引テ之ヲ揚グ、長三丈五尺、圍一丈三尺、其夜彦四郎ノ門ヲ敲テ、號泣スル者アリ、之ヲ跡スルニ見エズ、幾ナクシテ一家皆死ス、（元書、此事ヲ以テ文祿ノ初ト為シ、年月ヲ詳ニセズ、故ニ此ニ載ス、凡ソ列ノ北境、鯢魚多シ、近時獲ル所、六七尺ノ者ヲ以テ、最大ト為ス、）

慶長三年。戊戌五月十七日。江原親次卒ニ于朝鮮。（作陽誌。）

朝鮮ノ兩役、本州ノ將士及ビ役夫之ニ從フ者多シ、親次（兵庫介、大庭邸、）麾下福島則盛（七右衛門、玄蕃ノ子、）牧源之丞（城主、）

等ヲ率ヰ、釜山浦ニ航シテ病ニ罹ル。終ニ臨ミ家士原、國米、喜多、黒瀬等ニ囑シテ曰ク、吾嗣子ナクシテ死ス、命ナリ、願クハ汝等吾骨ヲ櫻池院龍海紀伊馬野山ノ僧十ニ輸送シ、而シテ小宇ヲ故郷中山手村祖考ノ塋側ニ建テ、以テ吾牌ヲ安セヨト、言訖テ瞑ス、原等遺言ノ如クス、龍海其宇ヲ名ケテ金龍山江源寺源今原ニ作ル、ト曰フ、親次弟姪アレドモ、秀家其嗣ヲ立ズシテ邑ヲ収ム、親次ハ江原兵庫助久清ノ子ナリ、曾祖和泉守佐次、永正中久米北條郡中山手村ノ城ヲ以テ、浦上村宗ニ屬シ、倭文庄ノ内ヲ領ス、親次沈勇ニシテ智畧アリ、宇喜多氏、毛利氏ト兵ヲ交ルノ日、親次本姓ヲ篠葺城ニ居キ、以テ西郡ヲ扼セシメ、封ヲ增シ姓ヲ授ク、已ニシテ親次本姓ニ復シ、兵庫助ニ改ム、後食邑一萬石ニ至ル、

五年。庚子九月。宇喜多氏亡。備前軍記。關原軍記。

關ガ原ノ役、秀家兵一萬五千ヲ率ヰ、石田三成ニ大坂ニ會シ、八月、伏水城ヲ陷レ、進デ美濃ニ入ル、九月十五日、關ガ原ニ戰ヒ、三成等敗績ス、秀家既ニ死スト稱セシメ、左右ト同ク逃テ近江ニ匿レ、又薩摩ニ竄ル、後事覺ハレ、其子家親備前守ト共ニ伊豆八丈島ニ配セラル、伏水ノ役、牧左馬助、安東勝七、朱登シ功アリ、左馬助後森氏ニ仕ヘ、勝七ハ備前池田氏ニ仕フ、

十月五日。小早川秀秋。領備前美作。備前軍記。黄薇古簡集。

秀秋實ハ木下家定ノ子、小早川隆景ニ子養セラレ、筑前名島ニ居ル、中納言ニ任ズ、關ガ原ノ役、功アリ、備作ヲ領

シ、岡山城ニ徙居ス、其宰平岡重定（石見守）、杉原重政（紀伊守）、稲葉通政（内匠頭）、政ヲ執ル、

是歳吉野郡人宮本政名往ニ九州。（武藝小傳。撃剣叢談。元禄明細帳。）

政名（撃剣叢談、義恒ニ作ル）武蔵ト稱ス、宮本村（吉野郡）ノ人ナリ、

其先赤松氏ノ族、衣笠氏ヨリ出ヅ、播磨平尾村ニ住シ、平尾ヲ以テ氏トス、政名ニ至テ、又邑名宮本ヲ以テ氏ト為ス、其父太郎左衛門、新免宗貫ニ属シ、十手ノ術ヲ以テ世ニ聞ユ、新免無二齋ト号ス、政名幼ニシテ父ノ術ヲ兼ケ、傍ラ畫ヲ善クス、年甫テ十三、特ニ心ヲ撃剣ノ術ニ用ヒ、播磨ニ學ブ、業成テ天下ニ歴游シ、有名ノ士ニ逢ヒ、技ヲ試ミ術ヲ較ラブル六十餘回、未ダ嘗テ一敗ヲ取ラズ、時人之ヲ日本無雙ト稱ス、其吉岡拳法ニ京師ニ勝チ、佐々木岸柳ヲ舟島ニ殺ス等、後世尤モ著稱スル所ナリ、是年、宇喜多氏亡ビ、宗貫黒田長政（筑前國主）ニ仕フ、政名亦去テ九州ニ往ク（正保二年、政名肥後熊本ニ死ス、子伊織小倉城主小笠原氏ニ仕ヘ、老臣ニ列ス、）

秀秋置ニ守于倉敷高田二城。（作陽誌。江見家記。）

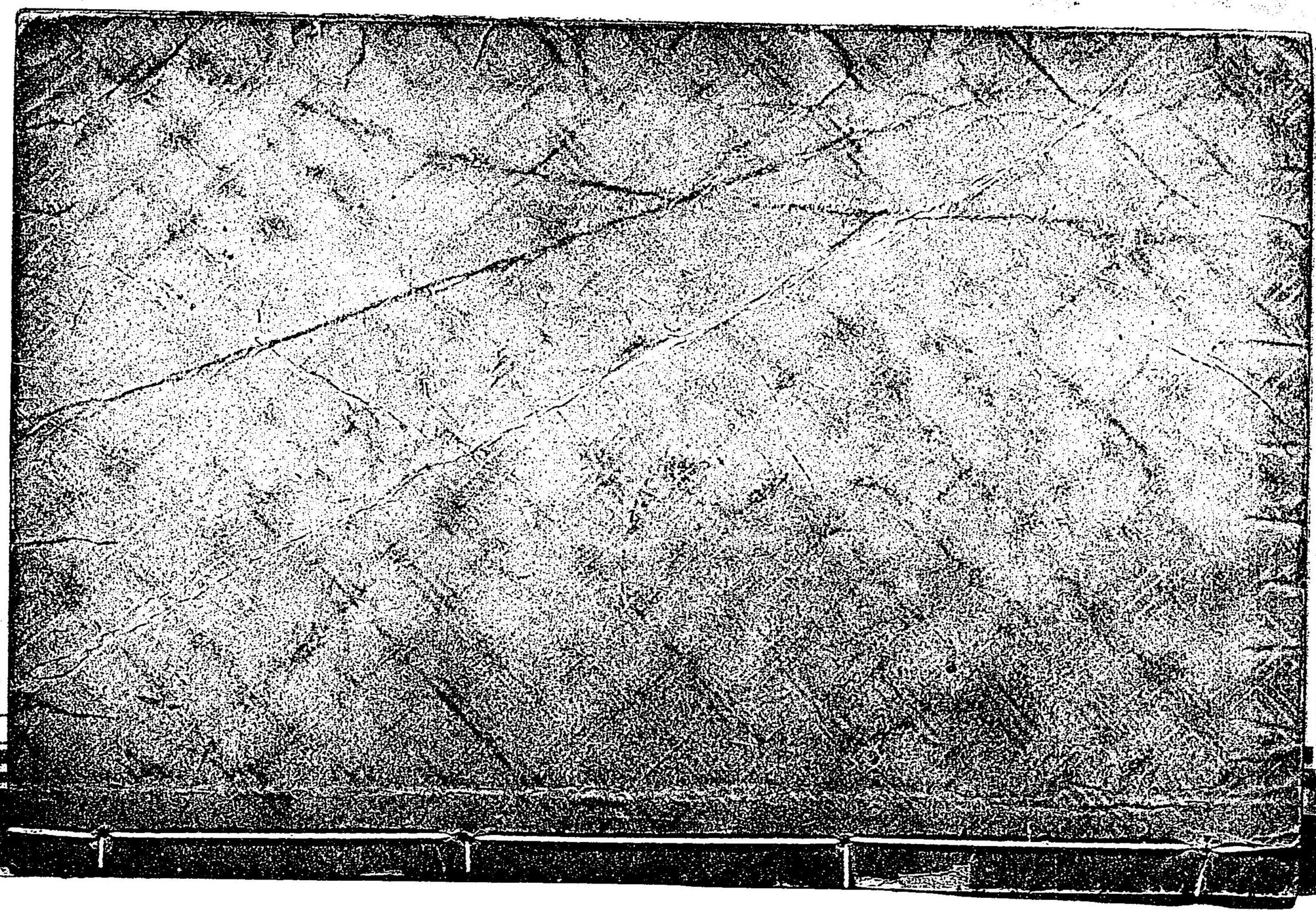
倉敷（英田郡）、高田（真島郡）、八州中ノ要地ナリ、秀秋其臣服部隠岐守、服部勘助、木下齋之助ヲ高田城ニ、稲葉通政ヲ倉敷城ニ居キ、之ヲ守シム、

七年。戊寅。九月三日秀詮給ニ禄邑ヲ于諸臣（黄薇古簡集。）

是日、秀詮（秀秋ノ改名）、備作ノ地ヲ剖テ諸臣ニ分チ與フ、

十月十八日。秀詮薨。無嗣國除（備前軍記。本朝年代記。吉備前鏡。作陽古簡集。淺野長政下知狀。）

先是、秀詮放逸忠諫ヲ納レズ、人ヲシテ杉原重政ヲ殺シム、稲葉通政禍ノ已ニ及ブヲ恐レ國ヲ去ル、其他勲舊ノ將士、亡命スル者多シ、是日俄ニ薨ズ、年二十三、嗣ナシ、二十二日、訃大坂ニ至ル、奉行淺野長政・増田正澄、即チ令ヲ下シ、秀詮ノ遺臣、私ニ禄券ヲ用ヒテ、其租ヲ徵スルヲ禁ズ、無幾國除シ、小早川氏亡ブ、

美作略史巻之二終

2
21